

ジョルダン・サンド

Lecture on Topography

日時 2012/6/9(日)
開始 17:00 (開場は30分前になりませう)
場所 MEDIA SHOP
定員 約50名
入場料 無料
お申込み・問い合わせ
mediashop@media-shop.co.jp

司会: 佐藤守弘 (さとう・もりひろ) 京都精華大学デザイン学部教授

ゲスト: Jordan Sand (ジョルダン・サンド) ジョージタウン大学歴史学科准教授
東京大学大学院情報学環客員教授

2013)、「遺影と擬写真——アイコンとインテックスの錯綜」(『美学芸術学論集』9、2013)、「白屋夢としての京都——『そうだ 京都、行こう。』が約束する未来」『美術フォーラム21』27、2013)がある。

佐藤 守弘 (さとう・もりひろ)
京都精華大学デザイン学部教授
コロンビア大学大学院修士課程修了、同志社大学大学院博士後期課程退学。博士(芸術学)。専門は視覚文化論。場所と視覚的イメージの関係、とくに観光の視覚文化に興味をもっている。単著に『トボグラフィの日本近代——江戸泥絵・横兵写真・芸術写真』(青弓社、2011)、『最近の論文に「写真と仏像——仏」の美化と商品化』(『文化学年報』62、2013)、「遺影と擬写真——アイコンとインテックスの錯綜」(『美学芸術学論集』9、2013)、「白屋夢としての京都——『そうだ 京都、行こう。』が約束する未来」『美術フォーラム21』27、2013)がある。

講演会

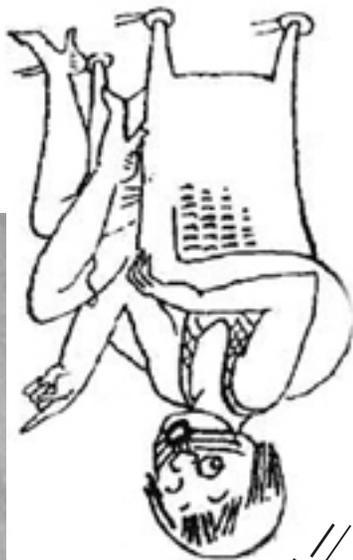
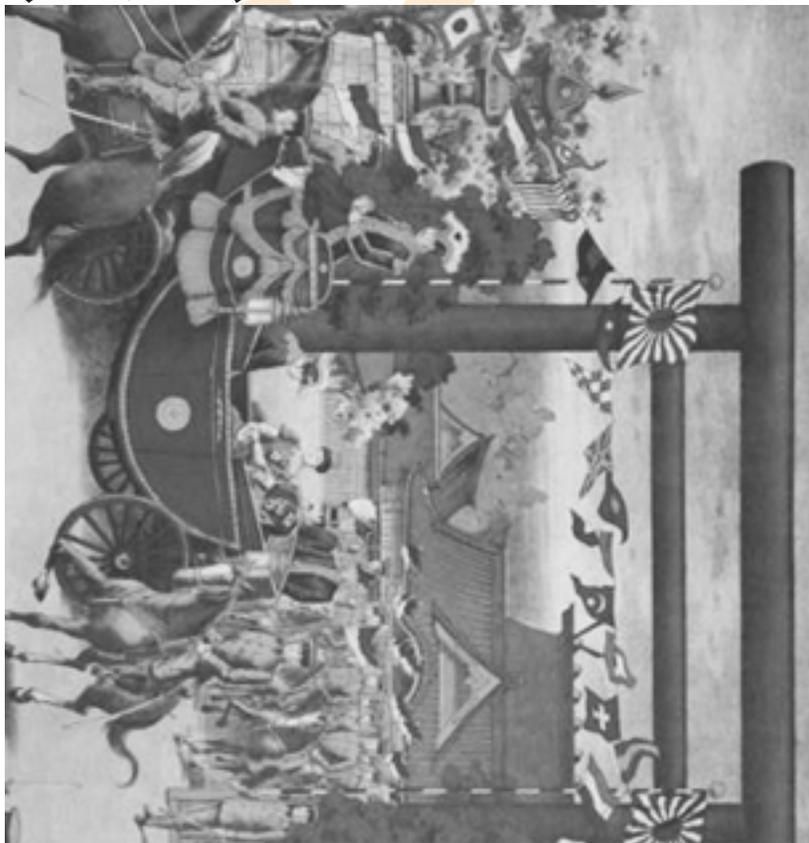
詳しい情報は、以下にアップしていきます。



Jordan Sand (ジョルダン・サンド)
ジョージタウン大学歴史学科准教授
東京大学大学院情報学環客員教授

コロンビア大学大学院修了。博士(歴史学)。近代日本文化史専攻。特に都市、建築、物質文化あるいは食文化の幅広い事例に注目して、日本の近代化の諸問題を研究。単著にHouse And Home in Modern Japan: Architecture, Domestic Space, And Bourgeois Culture, 1880-1930 [『近代日本における家と家庭——建築、家内空間、ブルジョア文化:1880~1930年』](Harvard University Press, 2005)。日本語での論文に

「文化住宅というメディア文化の産物」(『建築史攷——鈴木博之先生献呈論文集』中央公論美術出版、2009)、「グルタミン酸ナトリウム(MSG)小史——『悪い科学』と『良い科学』、味覚の文化」(『東京大学大学院情報学環紀要——情報学研究』76、2009)、「都市観察の美学——考現学とその子孫」(『建築雑誌』Vol. 123 No. 1593、2009)、「ちやぶ台論をひっくり返す——小寺家の食習慣」『美術フォーラム21』vol. 20、2009)等がある。『美術フォーラム21』vol. 20では、特集「物質性/マテリアリティの可能性」を佐藤守弘とともに共同編集。また単著Tokyo Vernacular: Common Spaces, Local Histories, Found Objects [『東京ヴァナキュラー——共有空間、地域の歴史、オブジェ・トゥールヴェ』]がカリフォルニア大学出版局より、『帝国日本の生活文化史』が岩波書店から刊行される予定。現在、東京大学大学院情報学環に客員教授として在籍中。



「モダン生蕃」の東京見物——1930年代「帝都」の演出

1895年から1945年の間に日本が植民地帝国であったことは「帝都」東京にどのような視覚的・空間的表現法とその政治学を論じ、また「帝都」を見せる日本のホスト役をも分析する。当時「生蕃」とも呼ばれた台湾原住民と南洋の諸民族の代表団を東京に連れてきた、いわゆる「内地観光」と南洋の諸民族の「帝国近代」というふたつの近代性の形態を提案したいと考えている。

〒604-8031
京都市中京区河原町三条下る一筋
目黒入る大黒町44 VOXビル1F
tel: 075-255-0783
fax: 075-255-1592
mail: mediashop@media-shop.co.jp
web: http://www.media-shop.co.jp